
今しか見れない空

秋の葉っぱ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今しか見れない空

【Nコード】

N5634G

【作者名】

秋の葉っぱ

【あらすじ】

そこには彼女がいる。彼女は空を見続ける人だった。

この辺りの中で一番高い場所に彼女はいる。
そこには特別になにかがある場所ではない。

それでも、彼女はそこに何かが存在しているかのように空を見ていた。

同じように空を眺めてみても、綺麗な青空が広がっているだけだった。

だからだろう、彼女に見えているものが気になる。

それから毎日、彼女と一緒に空を眺めるようになった。

空を見るようになってわかったことは、今見れている空が今しか見れない空であること。

そして、彼女は「今しか見れない空」を見ているのだと思った。

この時、胸の中で何かを感じた気がする。

なんだろうか。

彼女を見ているものが「空」だったことに対する不満だろうか。

それとも、「今しか見れない空」をもう一度見たいと思う願望だろうか。

たぶん、どちらでもないだろう。

切なくて、儚くて、そして……。

彼女の存在は、その場所において特別だった。

空を見続ける彼女は「今しか見れない空」に匹敵するほどの美しさを有していた。

その目に惹かれるものがあった。

だから、その目に見つめられた時、不覚にも胸が躍る気持ちになった。

その日から彼女と空を眺めるようになった。

だが、たくさんの時が経った今でも覚えている。

この辺りの中で一番高い場所に彼女は居る。
そこには特別になにかがある場所ではない。
それでも、彼女はそこに何かが存在しているかのように空を見ていた。

その隣で彼女と一緒に見た「今しか見れない空」の光景を今でも鮮明に覚えている。

（後書き）

初めて投稿しました。

いかがだったでしょうか。作者自身もあまりよくわからない小説になっ
てしまいました。これからも、小説を書いていきたいと思いま
すのでよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5634g/>

今しか見れない空

2011年1月15日21時55分発行